

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	東京医科歯科大学
連携大学名	無し
事業名	PDCA医療クオリティマネージャー養成

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	<p>本事業では、</p> <p>①高度急性期病院において医療安全・感染制御を含む医療の質確保のために必要な医療データの収集・分析の意義と手法を理解すること。</p> <p>②計測される臨床指標等の評価活用方法を理解すること。</p> <p>③それらの指標を用いた質改善プログラムの設計と運用方法を理解すること。</p> <p>④更にそれらの仕組みを効果的に実現する有機的な組織連携の構築と病院マネジメント手法を理解すること。</p> <p>以上4点を本プログラムの教育達成目標とする。</p> <p>【中期的アウトカム】 本事業で養成された人材が、大学病院をはじめとする高機能病院における医療の質確保等の部門での活動に従事し、医療の質改善プログラムと病院マネジメント改革の原動力となる。</p> <p>【長期的アウトカム】 多くの医療機関において医療を適切に評価する文化が浸透し、より質の高い医療をより効率的に提供できる医療提供体制の構築につなげる。</p>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・クオリティ・マネジメント・センター専任教員の募集(2名) ・平成27年度受講生の募集(一般医師5名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度受講生の募集開始(後期研修医2名、一般医師10名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度受講生の募集開始(後期研修医2名、一般医師10名、他の医療職5名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度受講生の募集開始(後期研修医2名、一般医師10名、他の医療職5名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度大学院修士課程クオリティマネジメントコース学生の募集開始(17名)
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・クオリティ・マネジメント・センター設置準備委員会の設置(2回開催) ・クオリティ・マネジメント・センターデータ分析室の整備 ・推進委員会、評価委員会の組織/設立(1~2回開催) ・講義、演習、実習を中心とした本事業カリキュラム策定のため、国内の先行/類似取組の調査/研究、演習・実習用教材の整備 ・PDCAプログラムの企画/運営に関する教員研修(1回開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度受講生の講義教育プログラムの導入 ・クオリティ・マネジメント・センターの設置 ・PDCA演習用のデータ分析と教材の整備 ・平成27年度受講生のPDCA演習、実習の開始 ・後期研修医等へのアーリー・エクスプージャーを含めたカリキュラムの改善と見直しの検討 ・中間評価に向けた自己点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期研修医等へのアーリー・エクスプージャーを含めた平成28年度受講生の講義教育プログラムの開始 ・医師以外の医療従事者のための教育プログラム開発を含めたカリキュラムの改善と見直しの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師以外の医療従事者の教育プログラムの提供を含めた平成29年度受講生の講義教育プログラムの開始 ・フォーラムでの意見交換等に基づいた教育プログラムの再検討 ・プログラムの実績に基づき、大学院修士課程にクオリティマネジメントコースを設置する準備を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師以外の医療従事者の教育プログラムの提供を含めた平成30年度受講生の講義教育プログラムの開始 ・最終評価に向けた自己点検

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> クオリティ・マネジメント・センター専任教員の採用(2名) 平成27年度受講生の選定(一般医師5名) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度受講生の選定(後期研修医2名、一般医師10名) 平成27年度受講生の修了認定(一般医師5名) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度受講生の選定(後期研修医2名、一般医師10名、他の医療職5名) 平成28年度受講生の修了認定(後期研修医2名、一般医師10名) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度受講生の選定(後期研修医2名、一般医師10名、他の医療職5名) 平成29年度受講生の修了認定(後期研修医2名、一般医師10名、他の医療職5名) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度大学院修士課程クオリティマネジメントコース学生の選定(17名) 平成30年度受講生の修了認定(後期研修医2名、一般医師10名、他の医療職5名)
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> クオリティ・マネジメント・センターの設置準備による本事業に必要な教育体制の整備 国内の先行/類似取組の調査/研究による必要な演習、実習用教材の整備 PDCAプログラムの企画に携わる教員の能力向上 	<ul style="list-style-type: none"> クオリティ・マネジメント・センターの設置による質改善、安全管理、感染制御を含む実践的なクオリティ分析を行う実習の提供 教材・カリキュラムの整備に伴う教育効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 教材・カリキュラムの整備に伴う教育効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの再検討、教材・カリキュラムの整備に伴う教育効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業履修者を集めたフォローアップセミナーの開催による教育効果の維持・拡大
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	PDCA医療クオリティマネージャー養成のための、一般病院における医療の質改善PDCA実践例(10例分)の教材の整備	PDCA医療クオリティマネージャー養成のための、一般病院、大学病院における医療の質、安全、感染制御のPDCA実践例(累積20例分)、及び医療データ分析力・マネジメント力習得のための教材の整備	PDCA医療クオリティマネージャー養成のための、一般病院、大学病院における医療の質、安全、感染制御のPDCA実践例(累積30例分)、及び医療データ分析力・マネジメント力習得のための教材の整備・補強	PDCA医療クオリティマネージャー養成のための、一般病院、大学病院における医療の質、安全、感染制御のPDCA実践例(累積40例分)、及び医療データ分析力・マネジメント力習得のための教材の整備・補強	PDCA医療クオリティマネージャー養成のための、一般病院、大学病院における医療の質、安全、感染制御のPDCA実践例(累積50例分)、及び医療データ分析力・マネジメント力習得のための教材の整備・補強
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 受講者を将来的に病院組織マネジメントを担える人材へと育成するための確立した教育プログラムの構築 本プログラムによる医療の質・安全・感染対策確保の人材育成に関して、国内の学術集会で成果を発表 	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムによる医療の質・安全・感染対策確保の人材育成に関して、国内外の学術集会で成果を発表 	<ul style="list-style-type: none"> 医療の質・安全・感染対策確保のためのPDCA人材育成に関するシンポジウムの開催により事業概要を一般社会に発信 第三者評価委員会による中間評価を実施し、評価報告書を他大学や他の医療機関等に配付 本プログラムによる医療の質・安全・感染対策確保の人材育成に関して、国内外の学術集会で成果を発表 	<ul style="list-style-type: none"> 医療の質・安全・感染対策推進をテーマとするフォーラムで学術専門家、国内の医療機関の専任担当者、本プログラムの修了者等との意見交換 本プログラムによる医療の質・安全・感染対策確保の人材育成に関して、国内外の学術集会で成果を発表 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価委員会による最終評価を実施し、評価報告書を他大学や他の医療機関等に配付 本プログラムによる医療の質・安全・感染対策確保の人材育成に関して、国内外の学術集会で成果を発表

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる取組や体制を構築すること。	事業推進委員会の下部組織として実務担当者によるワーキンググループを構成し、教育カリキュラム、シラバス、教材等を3か月程度ごとに定期的に見直し、PDCAの手法を用いてプログラムの継続的な改善を図る。履修者のキャリアパス形成を支援するために、プログラム終了後も、フォローアップセミナーの開催、関連するセミナー情報等の伝達、履修者間の情報交換の場の設定、提携する一般医療機関との交流機会の設定などの取組を継続する。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	本学診療担当理事を責任者として、関連部門の長(ちょう)及び学外事業提携先の国立病院機構の有識者をメンバーに含む事業推進委員会を組織し、本学附属病院におけるチーム医療の実践経験や一般病院における医師、医療従事者の研修実績をいかした、養成プログラムの開発と事業推進体制を構築して、本事業を進める。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	本事業終了後に、本学修士課程医療政策管理学コースに組み込むことを想定して、修士課程として継続可能な教育体制、教育プログラムの開発を行う。本人材養成プログラムの成果や開発した教材等を、学会、論文等に継続的に発表するとともに、大学ホームページ等にその成果等を公表していく。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
プログラムの目的に「高機能病院で提供される医療の質を評価できる」ということが記載されているが、本事業が目指している分析力・実行力を備えて、リーダーシップをとれる人材が養成されるよう、開発する教育プログラムを常にPDCAサイクルで工程管理することが望まれる。	本人材養成プログラムの実務担当者によるワーキンググループを組織し、教育カリキュラム、シラバス、教材等を3か月程度ごとに定期的に見直し、PDCAの手法を用いてプログラムの継続的な改善を図る。
履修者のキャリア形成支援の具体的な方策について更なる充実が望まれる。	履修者のキャリアパス形成を支援するために、プログラム終了後も、フォローアップセミナーの開催、関連するセミナー情報等の伝達、履修者間の情報交換の場の設定、提携する一般医療機関との交流機会の設定などの取組を継続する。あわせて、本人材養成プログラムの成果や開発した教材等を、学会、論文、大学ホームページ等に公表して、本プログラムで養成された人材の、我が国の医療機関での医療の質の確保における有用性、重要性の認識を広める。